

光和精鉱(株) 50年のあゆみ 創立50年全員配付

光和精鉱の歴史		西暦	硫 酸	ダスト処理	塩化揮発・ペレット	廃棄物処理 (焼却処理)	廃棄物処理 (抽出処理)	芒硝・その他	トピックス
昭和35年	会社設立 (S36.2.10)	1960							
昭和36年		1961							
昭和37年	光和プロセス(竖型炉) 設備技術上の問題 克服年代	1962	第1硫酸工場完成(モノ式シグモコクト)		No1竖型焼成炉完成、ペレット生産開始				
昭和38年		1963			No2竖型焼成炉完成				
昭和39年		1964				No3竖型焼成炉完成			
昭和40年		1965	硫酸鉄処理開始 含有砒素焼成の再焙焼実施			1号ロータリー完成 1号ホッパー完成			
昭和41年		1966	焙焼脱砒技術完成(分散給鉱装置)		2号ロータリー完成 ホッパーから真空冷却装置へ変更			戸畑製造所完成披露	
昭和42年		1967	第2硫酸工場完成(ルギ式ダブルコクト)		2号ホッパー完成、ピスマス回収設備完成				
昭和43年		1968			金属ピスマス回収設備完成				
昭和44年		1969	塩化鉄濃縮設備完成		ガス洗浄塔充填塔からTCAへ変更 2段焼成バーナー完成			同和精鉱株式会社設立	
昭和45年		1970	第1硫酸工場ダブルコクト化、 硫酸黄濁処理開始		1号キーンマルチターネット			研究棟完成 アメリカ・レットブランド技術供与(稼働1972~)	
昭和46年		1971	80m煙突完成		2号キーン中間エアー、塩素が吹込メ 液処理設備増強、排水処理設備完成			苦小牧・レットブランド技術供与(稼働1972~)	
昭和47年		1972			取銅設備の増強			パラバック選鉱場完成 (バレット選鉱~S53)	
昭和48年		1973	4段中和処理設備		1号ロータリー更新			第1次バレット	
昭和49年		1974	硫酸工場操業短縮開始		排煙脱硫設備完成(HI石灰石膏法)				
昭和50年		1975		高炉湿ダスト処理の研究	貯蔵ビン完成	産業廃棄物処理業認可取得			
昭和51年		1976	硫酸第2工場休止		塩化カルシウム回収設備完成	乾式&湿式銅滓処理設備 PDC処理設備、硫酸黄濁処理設備		中国・レットブランド技術供与(稼働1980~)	
昭和52年		1977	排煙脱硫設備(塩基性アルミ)完成	4号炉での高炉二次灰処理開始	タール洋燃料化設備	廃セラミック処理設備 チン酸硫酸処理設備		がら・レットブランド技術供与(稼働1980~)	
昭和53年		1978						塩化揮発ペレット法が再資源化貢献企業表彰 人員合理化	
昭和54年		1979	チン酸硫酸処理開始					[チン酸処理]で八幡製錬所長より感謝状	
昭和55年		1980	硫酸がスロウVVVF化	廃熱回収設備(熱交)完成 I770VVVF化 高炉二次灰事前処理(脱カル)	燃料にCOM、粉コークスの使用				
昭和56年		1981	3号焙焼炉更新 70%硫酸製造開始	ダスト流動冷却炉による廃熱回収	沈殿銅連続回収設備完成 ダストタンクへ撤去→冷却塔1基化		COG脱硫廃液処理設備完成	創立20周年記念式典 光和・レト特許権を東洋エンジニアリング(株)へ	
昭和57年		1982	1号焙焼炉更新(2,3号炉で硫酸製造)	給鉱2系列化(硫化鉱ダスト) 1号炉でのダスト処理開始(ペレット向け) 4号炉でモノ鉄原製造開始			黒鉛回収設備完成		
昭和58年		1983			4号炉乾粉類の乾式フィーダー開始			人員合理化	
昭和59年		1984	1~3号炉での硫酸製造 硫酸濾過装置増設 がら精製塔設置(硫酸Hg対策)	1号炉は硫化鉱焙焼を復活 4号炉はペレット原料ダスト焙焼 排煙脱硫を水切り方式に変更	鉛浮選による金銀の回収(沈殿銅へ) 沈殿銅回収バッチ方式へ戻す				
昭和60年		1985	釉薬用鉄原(硫酸焼成)製造開始		回収塩が脱カル設備設置 三井ターナル処理開始				
昭和61年		1986					釉薬製造開始(~S62)	メキシコに塩化揮発回収プラント建設(JICA)	
昭和62年		1987	海外より原料硫化鉱を調達		2号ロータリー休止	産廃専用焼却設備完成 (2号ロータリー転用)	鉄粉物からの素弁製造開始	産廃営業部開設	
昭和63年		1988					素弁製造休止	黒鉛事業が再資源化貢献企業表彰(通産省)	
平成1年		1989							
平成2年		1990				空ドラム焼却用固定炉設置 真空冷却装置復旧(産廃増処理)			
平成3年		1991	海外硫化鉱が原料の2/3		回収原液の全量濾過開始	DAMカーの開発・実用化		秤量機移転更新	光和安全会発足
平成4年		1992							計量証明事業開始
平成5年		1993				2号固定炉完成			DAMカーが福岡県発明考案優秀賞を受賞
平成6年		1994							
平成7年		1995	溶融硫酸焼成設備完成	モノ原料製造設備完成 (1号炉復活)	原料を製鉄集塵ダストに転換	佐賀県唐津汚染土処理		コカ・電池からのNi,Cd回収 開始(~H17)	メカ・タンによる異臭事故発生 東京営業所開設、本社機能を九州移転 唐津汚染土処理で佐賀県より感謝状
平成8年		1996	硫酸がスロウを蒸気タービン化		ミストコクトル、洗浄塔増強、60m煙突完成	ホッパー流出重油処理	広島砒素汚染泥処理開始(~H10)		
平成9年		1997	新3号ホッパー完成(2,3号ホッパー統合)	ワイヤ押上げ改善対策実施			大久野島砒素汚染土壌処理(~H11)		ホッパー流出重油処理で海上保安庁より感謝状
平成10年		1998					産廃飛灰、塩アクリル処理開始		
平成11年		1999	多管式硫酸クーラー完成(ワイヤ・ジョーカー廃止)				大久野島赤濁処理	黒鉛製造休止	
平成12年		2000	溶融硫酸による硫酸製造中止 (硫酸中継基地化)	1号炉ダスト処理MC復活(DXNs対策)	ペレット系/産廃系ガス処理分離	ホッパー処理開始			創立40周年記念式典 産廃処理優良企業表彰(北九州市)
平成13年		2001				排ガス・イオン除去設備完成			関西営業所開設
平成14年		2002				産廃専用焼却設備更新 ダスト処理、POPs処理開始			No17号倉庫火災事故
平成15年		2003							
平成16年		2004	80m煙突解体撤去	モノ焼成気流搬送設備完成					
平成17年		2005		モノ原料製造設備更新(2号炉) 2,4号炉共通排水処理施設完成		塩類溶解設備完成	一廃飛灰リサイクル事業開始		工場排水へのA重油漏洩事故 ISO14001認証・登録、ホッパー清掃活動
平成18年		2006					飛灰リサイクル設備増強		
平成19年		2007							
平成20年		2008							
平成21年		2009			揮発ペレット燃料LDG化				
平成22年		2010				微量PCB処理事業開始			
平成23年		2011							COG脱硫廃液処理休止

